二十四日　夕刊

磐城每日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵　税　金十五錢
□一部賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城每日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英

政治の對象は人間であつて人心の機微を摑むことこそ古來政治家たるものゝ第一の心掛けとなつてゐる（東京日々）

閼伽井嶽

見參記

（上）高瀬勝男

いましきりに、磐城魂の兎角に知者それ〲小一家言を有し檢討せる最中、愚輩もおづ〱罷出で斯くは詩箋を草した次第

農魂

往昔より幾變遷
彼我、季節の生彩に性を享けて今日迄
行春昔日の哀愁は
雪片、散化に似たりと、嘆ずれとも
一礫の起想、凡そ古事につながる千年
越しかた
四圍の丘陵、岩盤に無爲にして刻した
生營はなかつた

誰も滞かない種を收め樣とする不正
養はない乳を、得ようとする奇蹟も考
へなかつた

日に新
日輪に禱り、熄まざる勞作に培つた
荒蕪の地は　始めて、荊棘の野に菜果
實る今日を得たのだ

牛馬とともに
喜こび、悲しみ、本日得た糧は明日次
代に貯へのこす、これ農魂に一貫した
とき武將の偉、名君の善政至れど、
人、拓す土地
耕す地に示す、情熱より優れるものが
ない

宣傳の統一

森忠雄

貯蓄週間なので町内いたる所ポスターや印刷物の氾濫であるが、あのポスターや印刷物の中どれだけ有効でどれだけが無効であるかを考へて見たい。それから同じ貯蓄強調を銀行郵便局等で別々のポスターや、印刷物で宣傳しないで、一諸にやつて見たらどうだらうとも思はれる。話は違ふが映畫の折込みなども三館一枚の紙に印刷したら經濟でもあり有効だらうと思ふがどうだらう

映畫のこと

城木伊佐緒

（三）

短篇小說の映畫化で印象に殘るものに東寶豐田四郎の演出の「鶯」千葉泰樹の「空想部落」成瀨巳喜男の「評判の娘」があり、又日活田坂具隆の「爆音」「五人の斥候兵」島耕二の「ひばり」「暢氣眼鏡」などがある。最近のものでは成瀨の「旅役者」がある。長篇のものでは東寶熊谷久虎の「上海陸戰隊」豐田四郎の「小島の春」阿部豐の「燃ゆる大空」日活の內田吐夢の「歷史」島耕二の「轉落の詩集」などは佳作に入るべきものであらう。殊に「小島の春」は手際よくまとめられたと云ふ感が深く、豐田の演出力と夏川靜江の素直な演技、杉村春子菅井一郎の迫力ある演技と相俟つて今後十何年かすぎてみても恐らく同じやうな感銘をうけることとであらうと思ふ。

最近のものではなんと云つても田坂監督の「土と兵隊」が最優秀の作品であらう。原作も演出も演技も三者しつかりしたものだけに兵隊のたくましさが畫面に横溢して實に見應へのある感銘の深い映畫であつた。唯遺憾なのはアフ、レコのために兵隊の靴足がどの場合も同じで單調であつた。例へば一日の討伐を終へて足取も重く宿舍に歸る兵隊の靴音もこれから元氣潑剌と行軍する兵隊の靴音も同じ調子であつた。

日活の內田吐夢の「土」は映畫藝術としてはむしろ「土と兵隊」を凌ぐものであらう。內田監督は足かけ三年の歲月を費し茨城方面にロケした良心的製作であり長塚節の原作を恥かしめない作品であつた。演技者もよく此地方の方言をよく消化し百姓になりきつて極めて健實な優れた映畫であつた。殊にその畫面の美しいことが今尙筆者の腦裏にしみて眼前に髣髴とするのである。（附記再上映を望む）

改正借家法に就て

辯護士　大嶺庫

（一）

輓近殷賑產業の急激な勃興と建築資材の不足とによつて都市に於ける借家は著しく拂底となり住宅難のため大變困る現象を呈した。それだのに（家主中には主として東京に現はれた問題だが）家賃引上の方策として貸家の明渡を要求したり借家期間滿了後の契約の更新を拒んだり解約の申入をなしたりして家主と借家人間の爭ひは非常に多くなるに至つたそれは時局の影響で諸物價は益々昂騰する一方なるに拘らず家賃は昭和十三年八月四日現在で釘付けにされたゝめ家主としても貸家經營が中々樂でなくなつて來た事にも原因して居るのであるが、何れにしても人間生活に缺く事の出來ない衣、食住の一つだけに深刻な社會問題となつた次第であつた。そこで之を調和するために政府では

改正借家法
地代家賃統制令
貸家組合法
住宅營團法

等の新法令を制定したわけであるが此等の諸令の中でも家主や借家人にとり極めて關係の深い又以前に比べて大きな變化を來した改正借家法と地代家賃統制令とはよく飲み込んで置く必要があると思はれるのである。

借家法（改正前）と云ふのは大正十年の四月に公布され昭和五年五月十五日から施行された法律であつたが、施行區域が限定されて六大都市その他主要都市にのみ適用されて全國的ではなかつたのであつた。平地方には勿論施行されて居なかつたのだが昭和十六年三月十日之を全國に普遍的に適用する事になり、同時にその借家法に關しては大なる改正を加へられたのであつた。

從つて平地方に於ては本年三月九日迄は民法の賃貸借に關する規定が取引の規準となり又之に準據して裁判が行はれて居たのであつたが、其翌日即ち三月十日以後に於ては改正借家法が適用される事になつたわけである。

短歌

新妻久滿夫　選

戰陣雜詠

（上）　服部武正

◇別れ

會ひたれど明日は別れの北南
　元氣に征けと手を握りつゝ

◇中隊より宮村准尉戰死の報受けて

紅葉の散りたる上におく霜の
　淡きが如く君も逝きしか

故鄕の父母いかになげくらん
　心しのばれ筆は走らず

◇故里より姉上死去の便り着きて

故里の便りうれしと封切れば
　姉は死したりと書かれてゐたり

養生の藥送れど着くまたず
　姉は逝きたり子らを殘して

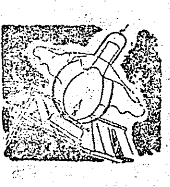
◇生前の姉の便りを偲びて

歸りくる日までは死せじと便くれし
　姉は歸らぬ旅に出でけり

◇逆襲

來らば來い此の愛刀に血ぬりして
　共にたほれん敵の血の中

月も佳し雲もなき夜の此の峯に
　何おしからん華と散る身を



異人劍法【11】

（禁無斷轉載上演上映）

車谷弘
下山望東畫

二つの道（二）

竹內は答へない。平馬がつめよつても、ぢつと押默つたまゝだ。時に眉宇稻妻に似た險しいものが閃く、持前の癇癖が今にも爆發するのではあるまいかと、初音は息づまるやうな想ひだつた。すると竹內は突然、

『あはゝゝゝ』

と笑ひ出した。

『何事かと存じたら、そんなお疑ひか、お願ひも事による。藪から棒に、そんな莫迦な事を云ひ出されても困るではないか。拙者がいふと水戶藩だからとやかくあらぬ疑ひを蒙るのは心外だ。血迷へばこそ其許も、疑心暗鬼を生むのであらうが、大體敵討が一年やそこらで……』

『御手前は、御手前はさう云はれるが……』

膝の上に、平馬は掌を握りしめて、

『兄を討たれた口惜しさが、この無念さが、御手前には分らぬのだ兄ひとり弟ひとりの始終は杖ともたよるべき兄上を、無禮討に斬つた奴……』

と聲も拳もふるはせて、

『わしは新九郎が憎い、たつた一人の兄を斬つた新九郎が憎くて、……』遺恨骨髓に徹する想ひだ。たとへ草の根分けても探し出して、わしはきつと敵を討つ新九郎を討つてみせるわしは確に焦つてゐるのだ。一日も、一時も早く兄の恨みが晴らしたさに、わしは確かに焦つてゐる。焦ればこそ參つたのだ。御手前に伺つたら、新九郎の居處に、お心當でもあるまいかと……』

『いゝや、其許は最初から、この竹內を疑つて參つたのであらう』

『では』

と睨んで、

『斷じて知らぬと云はれるのだな』

『くどいつ』

とつさに平馬の眦があがつた。カッと一時に逆流した若者の血が、凄じい形相で、堪へがたい憤まんを無理に抑へつけてゐるのが分る。初音はオロ〱し乍らも、良人を疑ぐられたのが情なくて、怨めしさうに睨んでゐると、はりつめた平馬の肩が、ふいにその時寂しく崩れた。

『さうか、さうですか』

そのまゝうつむいて顏をそむけた。やがて幽な吐息がもれて平馬の拳に、一滴の淚が光つた。

（兄を斬つたのはこの竹內だ、敵は今目の前にゐるのに……）

ガラリと變つて、打沈んだ横尾平馬の、その寂しげな肩を見るとたちまち竹內の胸もとに、何とも云へない苦いものゝみが、込み上げてくるのであつた。

（許してくれい）

竹內は危く咽喉まで出かゝる言葉を、グッと呑み込むと、平馬は叮嚀に手をついて、

『いや、御無禮をつかまつた』

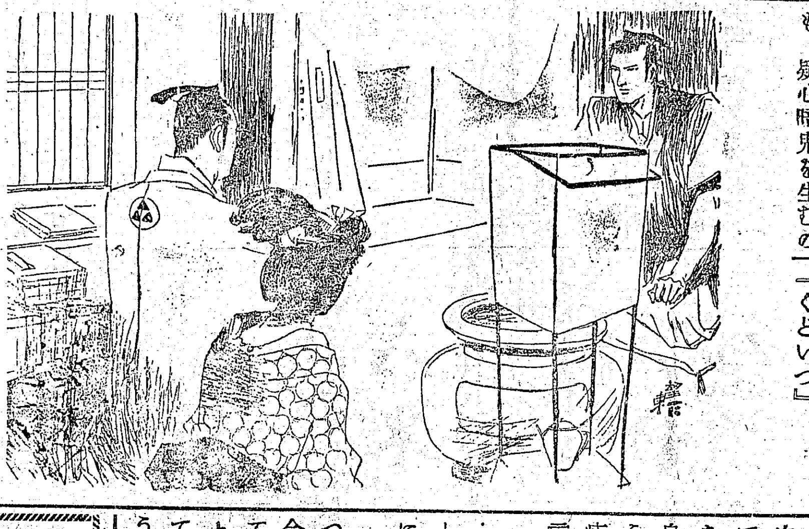
と頭をさげた。

太刀を携へて、悄々と立上つた平馬を、玄關へ送り出すと、戶外はもうとつぷりと暮れてゐた。平馬の編笠が闇の中に消え去るまで見送つて、ともかくもホッとして初音がまた戾つてくる、と竹內はもとのまゝの姿勢を崩さずに坐つてゐた。青白い顏色が冷たく沈んで、何か良人は思案にあぐねてゐるらしい。良人はひどく疲れたやうにも見える。初音も疲れた。しみ〴〵と初音は眸をうるませて、

『平馬樣もお氣の毒に……』

と半ばひとり言のやうに、

『だけど、新九郎樣だつて、あゝ新九郎樣は今頃は、何處にどうしてお過しだらう。ことしは秋風も身に沁みて、さぞ辛い事であらう……』



快適な筆觸
ウヱル萬年筆　金貳圓より數十種
佐々木のガラスペン　一本金拾錢より
ガラスペン中の第一級品です、一度の御使用が永久の御愛用となる事請合
平市學校坂下　代理店　魁文堂　電話三一二番

おでんとヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

平市大町
內臟外科
整形外科
▽入院隨時△
外科 內木醫院
醫學博士　內木宗八
電話七九番

御會食に
御商談に
割烹　幸樂
小名濱町幸樂通り
電話201番

產科、婦人科
井坂醫院
〔見習看護婦入用〕
平市田町　電五五九

內科　外科　小兒科　花柳病科
會田醫院
小名濱町上横町

本場特選
スッポン
肺、肋膜、心臟、胃腸の弱い方も血となり肉となる
生スッポン
生血・生膽
平市六丁目本町通り
岡崎スッポン店
養龜所　平市正月町一番地

大衆向きの小口保險
三百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
好條件で外交員募る
小名濱代理店　比佐致種

三笠燒
色羊羹
味自慢　風味萬點
モナカ屋がお茶受御土產として始めました、どうぞ最中と同樣御贔負を願ひます
平驛前中央通
米屋最中店

耳鼻、咽喉科專門
レントゲン科
高柳醫院
醫學博士　高柳博明
平驛前　電三三六

文選女工　見習募集
高卒程度
年齡十五、六才
〔希望者ハ本人來社アレ〕
磐城每日新聞社

口腔外科
齒科一般
森合齒科醫院
院長　森合芳男
植田町　電話七一番

大の削節
冷凍魚、鯨肉、ハム、ソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水產持約
ヒノマル食品店
平市三丁目　電話三八番

外科一般、內臟外科
性病科、肛門病科
▽入院應需△
外科 木村醫院
木村淳
平市南町（警察署通り角）
電話三〇九番

耳鼻科
咽喉科
▽入院應需△
增田醫院
醫學博士　增田之
平市紺屋町　電六五一

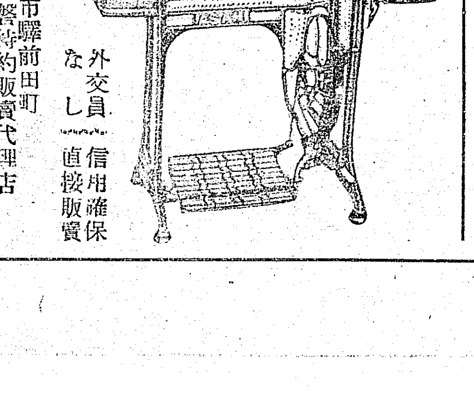
姓名鑑定
疾病、職業、天運、家族運、男女緣
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町
鵜沼孝昌

こしけ　りん病　專門藥
岩里 別府淋藥　一週間分　參圓（黑）五圓（赤）
痛みある病、熱ある病に…
岩里 別府散　七包入　五十錢　十五包入　壹圓
製藥本舖　別府市岩里天然堂
代理店　阿康藥局
平市古鍛冶町　電話四四
振替東京三〇〇五六番

平市紺屋町　番話六八番
吉田眼科醫院
醫學士　吉田久雄

だいこくやニュース
梅雨
配給品純綿朱子傘
大人用　3.90
〃　4.50
女學生用　3.10
蛇の目傘
小型文化傘　0.08
極上蛇の目　[illegible].16
防水マント
通學用　6.76
大人用　16.06
レインコート
オイルシルク男　01.00
女　04.30
平市　大黑屋

一台のミシンで浮ぶ家庭の經濟
良いミシン一台買つて衣服更生
追從を許されざる斯界の權威
ミシン界の明星
ミシン界の王座
代表的國產
シンガー
アサヒ
精研舍
ニッポン
トーア
ナショナル
ブラザー
迷はず…迷はされずに安心して買へるミシン
◎型錄進呈　電二九〇
外交員なし　信用確保　直接販賣
平市驛前田町
常磐特約販賣代理店
シンガーミシン商會



巴式・長洲風呂
風呂釜
平市紺屋町
電三六六番
大谷建材店

コツキー
國基の五大製品
ケンモーサーヂ　國民服　甲號　乙號
本絹中衣　甲號　乙號
本絹　レインコート　國民服用　外套規格
本絹　レインコート　A號　B號
國民帽と儀禮章
〔カタログ生地見本進呈〕
技術の優秀。親切な仕立
大量注文も御引受致します
コツキー製品特約店
大崎屋洋服店
平銀座　電九六番

高級酒
林檎
ミユキ
釀造元　青森縣弘前市　株式會社　御幸商會
福島茨城販賣元　石井德重商[illegible]
久ノ濱町　電話三一番

飯米問題檢討
區內會要望事項上通

【昨報】出直しの平市常會は縣佐久間經濟保安課長、內池社會教育主事、翼贊會近藤庶務部長等を迎へて開かれたが、出席の常務委員五十五名、珍らしくも緊張に終始、提出議案を檢討、上意を下達し、下情上通事項については何れも熱心に具言し、市理事會を經由して縣支部へ上申することになつた主なる問題は目下强調期間中の國民貯蓄問題飯米問題等が擧げられてゐる

眞劍な下部の聲
健康と榮養主題に要望

飯米問題は全縣下から相當喧ましく論議されるやうになつたが、市常會に於てもこの問題は最も眞劍に論議され『健康と榮養』を主題に色々な方面から相當強く要望され、市常會から縣支部へ下情を上通することになつた

飯米問答

吉田寅之輔氏、中等學生には單に寄宿舍下宿にあるものに限らず一般に四合を配給して貰ひたい、また國民學校兒童の分量も不合理と思ふ。職業別甲乙も根據が薄弱であると思ふ

川崎文治氏、配給米は縣の方針として改正を望むことは無理と信ずるから大森氏提唱のやうに榮養價の問題に就いて縣民を納得させるやうな方策を講じてほしい

近藤庶務部長、戰地を思うて辛抱してほしい。お互に相手の立場に温かい理解の情を注いで忍んでゆきたい。

大森勇氏、問題は健康であつて現在の配給米を繼續して果して健康や能率低下を來たす事なきや、二合五勺で我慢しなければならんなら足りない部分は代用食で補ふやうにして榮養價の不足を來さないやう科學的の指導を望む

吉田五平氏、要する食べる分量は習慣だから現在の配給米で足りるやう習慣づけることである。

長谷川政氏、現在齒科醫師方面で咀嚼節米運動といふものを起してゐるから之を援助徹底して食糧問題の解決の一方法としたい。

川崎文治氏、市理事者が榮養價の不足を發表した事は市民に不安を與へるもので好くないと思ふ。

花澤久一郎氏、麥を米から差しひかないでくれ、ウドン粉の配給について不都合がある。

久和署長、榮養講習は參會者が少ない。當局は榮養問題の解決は相當骨を折つてゐる。

渡邊久氏、滿州國の生徒が飯米に不足を訴へて歸國しようとしてゐるからどうかならぬか。

永山勇吉氏、飯米配給は全國劃一でない我々は觀念論だけで滿足はできぬ。縣當局は此點に努力せよ

國民貯蓄運動
隣組主体に組合慫慂

國民貯蓄運動に關しては目下行なはれてゐる強調期間中に國債及債券消化に協力するは論を俟たず國民貯蓄組合結成に主力を置き、施行細則乃至縣令を俟つて積極的に全市民へ呼びかけることになつた而してこの貯蓄組合は單位を區內會か隣組に基礎を置き、連絡を主として集金なども便宜を圖るとになり從來業種關係とか、或ひは知人關係などで組織されてゐる貯蓄組合なども漸次下部組織を中心に改めるやう指導する筈である

前線慰問通信
★☆★☆★【27】☆★☆★☆★

身にはボロを着て現金を貯へる

宜昌戰線よりの歸途
縣議　木村守江氏

それとて與へぬ譯にも行かぬ、誠に困ると言つてゐた、一体支那人の生活を見てゐると、例へば支那の農民が野菜を日本の兵隊の所に賣りに來る、日本兵はこれを買つて洗つて、枯れ葉を捨てると賣つた支那人はこの捨てた枯葉を拾つて行つてこれを食ふ、米でもその調子で米は賣つて兵隊やなんかの殘飯を貰つて食つてゐる、金になるものなら自分が死ぬまで頓着せぬ、皆金にしてしまつておく　それでボロ〱の着物を着てゐるが支那人は總じて金を持つてゐるといふ。一萬圓や二萬圓位持つてゐる支那人はざらにゐる。時々襤褸を纏つた支那人が金を盜まれたといつて日本の警備隊に訴へて來る、あまり大金なので何を言ふか、その樣子でとても眞面目に取り合はずに陰から調査して見ると　それが本當であることが多い、實に金を持つてゐるのには驚ろくと言つてゐた。

これに比較すると日本人の生活と余程異ふ點がある、日本人の生活はこれに較べるとあまりに浮調子でないだらうか。借金したり、會社から前借したりして着物や洋服を造り生活してゐるのと最低の生活に甘んじて金を持つてゐる支那人と何れが良いかは別として考へねばなるまいと思ふ

五月廿三日晴天、午前中鵜鵠嶺にて前記諸君に面接田原部隊長の晝食をいたゞき午後二時双蓮寺に向ふ、運轉手は大野の長谷川君である、運轉台で色々の話を聞きながら四時頃部隊に到着す。

こゝには江名町出身の中田中尉がゐる、昭和十三年の九月以來當隊に來て今では最古參である、元氣で隊の戰鬪力增進に余念がない平四丁目の佐藤還平少尉も自分達の來たのを聞いて來る、君は危い右肩胛部から項部に貫通創を受けたが今は全恢して極めて元氣である。

隊長に挨拶するとすぐ慰問に出かける、これも山の中に點々と散在してゐるので時間の關係で三方面に分れて慰問する、一里乃至二里の地點を馬で歩く

鈴木眞一(石住)鈴木忠仁(平)絹和八司(四倉)野村義重(同)天野忠吉(上遠野)阿部信義(夏井)瀬谷卯平(上遠野)鈴木安(太田)鈴木二三男(下小川)小林馨 (上遠野) 村上勝男 (勿來) 柴澤松榮(平)渡邊二郎(澤渡)石森清正(上遠野)渡邊定衛(川內)高倉定義 (石神) 榎本義秀(磐崎)木下光雄(內鄉)上杉一好(山田)岩淵吉惠(川部)水竹又四郎(平)出羽勝男(四倉)吉田善稻(金房)酒井淸作(神谷)磯部久義(廣野)荒嘉正(山上)齊藤一(同)門馬忍(大野)島重雄(磯野)菊地義郎(內鄉)菅野惣藏(新地)高木薰(大浦)山田重良(八幡)田中忠治(神谷)今村繁男(內鄉)齊藤久吉(上遠野)佐藤重信(眞野)富田三郎(四倉)廊原文雄 (草野) 堀川正一(平)落合政衛(滿戶)新妻弘毅(夏井)推名博(平)江尻安雄(泉)今泉信雄(平)鈴木三男(廣野)赤塚義男(大浦)

夜遲く歸つて双蓮寺に一夜を送る、夜間の三時頃慌しく整列する音が聞える。その中どこかへ向つて勢よく出發する、敵襲でもあるかと思つて覺したが疲れてゐるのではつきりはせぬ、その中に物すごい降雨がある、本當に水を零すやうな豪雨である、夜中に出かけた兵隊達は午前六時頃雨と汗でビシヨ濡れになつて歸つて來た

五月廿四日、昨夜の雨は何處へやらと思はれる程の晴天であるが道路はすつかり泥濘化してトラックが通れない程であるので馬で鵜鵠嶺へ行かねばならぬといふ。十一時迄に歸るべしとの警備司令官閣下の命令であるので早朝から部隊の慰問に歩く、午前九時三人の案內の兵隊に送られて鵜ジヤク嶺に歸る、山から山に造られた道ではあるが幅も廣くそれ程急坂もなかつたので今迄よりは氣樂に三里半の鵜ジヤク嶺に豫定の午前十一時に到着した、兼ねてからの約束で島田部隊の御馳走になる、幹部一同會長の爲め出席してくれた、色々有益な話を拜聽した

縣指導船
磐城丸
漁獲尠し

本縣指導船磐城丸は鰹を追ふて魚撈主任裏辻男爵が指揮し講習所魚撈科生徒を乘せて野島沖合の調査を了し昨二十三日朝小名濱に歸港したが獲物は鰹三千尾に止り案外面白からざる成績であつた

八紘丸
滿船し三崎入港
水揚五万圓

小名濱町磐城水產工業經營遠洋漁船八紘丸は二十三日三崎港に入港したが、滿船の快報に福尾支配人、牧田庶務主任は二十二日現地に出張したが、魚價安の爲め大体五萬圓程度の水揚げを豫想されてゐる

報國挺身隊
滿州建設勤勞案附議

報國挺身隊石城支部第二回總會は來月五日午前十時から平市國休事務所に開き今度八月頃縣主催で滿州國間島省延吉縣亮兵台にある滿州移民團石城分鄉へ派遣することに成つた「滿州建設應援作業班」募集に關する件を協議する、同作業班は徵兵檢査終了したもの十五名を前記「石城分鄉」へ約一ケ月の豫定で時派し同分鄉の勤勞奉仕をするものである

鄉土出征兵慰問
市銃後奉公會が內容に苦心

平市銃後奉公會では今次事變四週年記念日に當る七月七日を中心に市內國民學校兒童並に一般家庭から慰問文を蒐め鄉土色豐かな品を容れて平市出身の全出征兵へ慰問袋を贈ることになり、物資不足の折柄だけに慰問袋の內容には尠なからず頭を痛め商工會の協力を求めて適當な品を選定することになつた

待望の代用食
麥類は豐作
家庭へも潤澤に流すか

各家庭の副食物として待望の麥作が昨年より二割の增收—縣農產物檢査所平支所では收穫豫期に入つた麥數收穫豫想高を取纏め中であつたこの程やうやく縣へ報告したがこれに依ると平年より豐作で昨年に比し約二割方の增收うち大麥が約半數以上を占めてゐるがこの豐作は肥料に勞力不足を克服した二毛作耕作に依るものである

農青開拓會
今年も一反歩開墾

大野村大字白岩の農民青年八名を以つて組織する獎農開拓會（會長渡邊一君—十五年中型農民講習生）では昨年から〃獎農〃を旗印に農家の休日を利用山林の開墾に卒先從事してゐたが今年も山林一反歩を開墾することに決定、また水田裏作に馬鈴薯二反歩を作付ける外今度は古家建跡約八畝を同樣開拓することになり村の評判になつてゐる

四倉訓導
今日田植應援

四倉國民學校訓導約三十余名と商業水產青年校敎諭等は今二十四日三班に分れて手不足農家の田植作業を行なつたが第一班は宇田戶前の學校自作の田植をしたが約一反歩である

鮮魚行商人
統制令で締出され
既得權擁護運動

小名濱町では鮮魚行商を生業とするもの百五十余名の多きに達して居り、本町は生產地である丈けに町內販賣は數取りにも及ばぬ程で殆ど炭礦地區、湯本磐崎、上遠野と得意場を持ち傳統的に今日に至つたが、近時生鮮魚介統制令で各地に配給所が設置される事になり、七月一日より實施されるので、小名濱町百余名の鮮魚行商人は得意場より締出を喰ふ狀勢となつたので、これでは失業の奈落に突落されると云ふので百余名の同業者は本縣知事に陳情書を提出し行商は從來通り認めて欲しいと歎願したが、目的貫徹の爲めには大擧出縣猛運動も辭せぬ眞劍味を漂はしてゐる

都計の幹線路
六米擴張
住民の反對も漸次緩和

小名濱町の中心地を横斷する下横町（スマヤ角より臨鐵本社に通ずる個所）は都市計畫法に則り海岸幹線道路十五メータ幅員と同樣の道巾となるので現在より六メータも擴大する爲め兩側住民は『これでは住宅にならぬ家もある』と町役場に幅員を考慮して狹めて欲しいなどの陳情もあり成行きを注視されてゐるが都計により今更町役場のみではどうする事も出來ない狀態にあり然もこれ迄に本町發展の犠牲となつた町民も澤山あるので私本位の我も張れないので一兩年中には斷行する計畫の下に町當局も善後策に腐心してゐる

江名町の事務局
補助金で設置

江名町大政翼贊會下部組織たる町常會では、先月の會合に於て事務局設置の件を決定したが早速これが實現を期すべく町より五百圓各種團体より五百圓縣補助百五十圓を纏めて七月一日より常設機關とし吉田正男氏がその衝に當り青壯年隊長も兼ねる事と決定した

急救車改裝成る
ハドソンポンプも見事完成
平警防團機能强化

平警防團では一朝有事に備へ各分團事務所を建設、分團毎に各一合宛ガソリンポンプを設置することに決定、陣容强化に努めてゐるが更に配車となつてゐた撤水自動車を平市三丁目福島モーターに依囑『急救車』に改裝すべく修理を急いでゐたが赤十字のマークも鮮やかに椅子席も立派に實用的な車体となつて再生した

この急救車は二インチのホースを十本積載され、ポンプの役目を充分に果す外工作用、團員運搬用など三役も四役も勤めることになつた

尙老朽となつて使用に耐へ無く成つたハドソンポンプも千百余圓で東京日本自動車修理方を依賴してゐた處塗替へも見事に、元の機能を充分發揮出來る完全なものに修理成り、今廿四日到着したので同午後一時から市役所構內で兩自動車同時に性能檢査を施行青沼市長、關內團長以下各警防團役員等立合何れも萬點でパスした

未警告で
訓練演習
平警防團の催し

廿六日の第三回警防記念日の催しに關し、平警防團では未警告で特殊な實地訓練を行ふ模樣で關內團長と久和平署長との間に具体策が練られてある

四倉警防團
記念日の協議

四倉町警防團では來る二十六日の同團記念日を控へて今二十四日午後七時より幹部會を同署內に開き協議し二十六日には記念の催しを行こふとになつた

減收百八石
日素の煙毒圓滿解決

日本水素小名濱工場の煙毒に依る大麥の減收に關しては工場側でも愼重を期し、屢報の如く郡農會高田大森兩技手、小名濱町赤津技手等の調査を乞うてゐたがこの程損害査定が一致した、その發表に依ると反別十一町一反九畝、減收額百〇八石で收穫時の公定相場により各地主へ支辨する事となつた

吉田大佐市葬
廿八日午后一時公會堂

平市材木町住居吉田平一大佐內鄉村出身の市葬は廿八日午後一時から公會堂に執行と決定遺骨は菩提寺の內鄉村小島滿藏寺に埋葬する

江名漁組
出荷組合設立

江名漁業組合では時局に對處し緊急出荷組合設立の要に迫られ二十五日午前九時組合樓上に委員會を開き生鮮魚介出荷統制組合設立に關し第二回の協議會を開催する

江名漁業組合では最に統制組合大綱を決し急速にその設立を見る筈であつたが內容に異つた意見も出た爲め延引となり今日に至つたもので江名、中の作兩部落の統制出荷組合は分離して成立するものと見れてゐる

養正會の講演會
廿五日市公會堂

立憲養正會本縣第三區主催の全國宣傳隊時局講演會は廿五日午後六時から平市公會堂に開催する

辨士は本部總務宣傳局長加藤喜孝氏である

大敷網問題
第二回委員會

小名濱大敷網明年度よりの經營者の選定方法契約基本理念等は第一回江名、小名濱代表委員の聯合會に於て決定を見たが來る二十六日第二回聯合委員會を水試樓上に開き實行への具体化を協議する筈である

木村縣議
大森氏宅で講演

平市磐陽同志會並に大政翼贊促進同志會主催で二十二日午前七時より南町大森醫師宅で縣議木村守江氏を招き中支戰線の慰問談發表會を開いたが會集者約五十名、盛況裡に午後八時閉會同八時より木村氏を中心として更に座談會を開いて九時半散會した

分團建築
敷地に惱む

平警防團では有事に備へ各分團を整備することになり各分團常備のガソリンポンプ購入、分團事務所の建設を決定したが、第一分團建設豫定地が思はしからず、目下土地を物色中で敷地が定まらぬため行惱みの形にある

トラック
川底へ轉落

平市田町請負業强口唯七郎氏所有トラツク—運轉手中野一(三三)助手矢吹年勝(三三)—は昨二十三日午前九時ごろ砂利を滿載、赤井、好間兩村境にある愛谷橋にさしかゝつた際、橋が腐つてゐたため橋諸共約三米五十の川底に轉落したが幸ひ兩君とも無事であつた

生業資金
利用者僅少

去る十四日より營業開始した平市公益質屋の生業貸付は今二十四日現在まで利用者僅かに二件である、同生業資金は既報の如く一口五十圓、一世帶五百圓であるが洋服屋、古着屋さんなどに適當な金融機關で本月末ごろからボツ〱利用者が增加するものと見られてゐる、右に關し同質屋では語る

取扱開始してから十日目ですが未だ二件位なものです、特に古着屋さんなどに適當と思ひますが……生活に資する物よりかうした生業資金の利用を望んでをります、『夏枯』に備へ一般市民の利用をお奬め致します

魚の闇
平署で檢擧

平署では市內四丁目海產物篠塚平八郎(三七)を闇取引で取調べてゐたが同人は去る二日から市內仲町佐藤宇十郎さん外三十余名に卸公定價格を破つて闇で販賣百五十六圓余の不當利得を占めてゐたもの

送金小切手無効廣告
一、金額　金百七圓五拾錢也
一、番號　第三五回ノ一、八一〇號
一、發行日　昭和十五年九月十四日
一、受取人　横山萬藏(記名式)
一、支拂地　福島縣平市
右送金小切手紛失ノ屆出アリタルニヨリ自今無効トス
昭和十六年六月廿四日
發行銀行株式會社
安田銀行仙臺支店
支拂銀行株式會社
常陽銀行平支店

おちの良い
マルミ石鹸

商況
（二十四日）

【野菜】　高　安
大根　三三
ニラ　九〇
サヤ豆　九〇
玉葱　三〇
キウリ　三二

【鮮魚】
カツ　一九、三
ツマダイ　二五、〇
鯛　八五、〇
スズキ　六〇、〇
サバ　一四、四
イワシ　六、四
大アジ　二二、五
貝燒一個　三十五錢

天氣豫報

今晚　北西の風曇りから次第に良くなるでせう
明日　南の風くもり勝ちの天氣です

（二十五日）
滿潮　前三、亖　後亖　亖
干潮　前二、亖　午二、〇〇

平市慶弔錄

【婚姻】平市字揚土十五番地赤津宗男(三六)さんと宮城縣伊具郡館矢間村館山字西原武田とより(三二)さん

【出生】△平市中町十四番地石山熊次郎五女壽美子さん△平市田町三十七番地吉田力雄長女良枝さん△平市南町二十四番地小野喜三郎長女喜美子さん△平市二丁目五番地染野重次二男洋さん△平市大字大室字井戶一番地松崎銀藏二女圭子さん

【死亡】平市揺搥小路六番地大角忍(二)さん

御會葬御禮
六月二十四日
平市古鍜冶町
井尻啓三
井尻操

本年度の貯蓄目標　百卅五億圓
聖戰へ「我も貯蓄で驀ら」
翼贊貯金掛金表

滿期拂渡金	毎月掛金表 三年	五年
壹百圓ニ付	二、六六	一、四四

右ノ倍數ニテ如何程デモ差支ナシ
一、係員が毎月集金ニ御伺ヒ致シマス
一、貯蓄組合ノ貯金ハ特ニ御便利ニ扱ヒマス
一、其ノ他各種貯金ヲ扱ヒマス
有限責任信用組合
平庶民金庫

三井生命
三井生命保險株式會社
代理店　㊇釜屋商店
保險部　振替東京七〇四五

商工省免許
有價證券業　開店
七月三日より
公社債
株式賣買
福島縣平市字白銀町九番地
磐新證券商會
店主　蓮沼龍輔
取引擔任者　奈佐佐三
店員　柏木哲
同　本間三郎
同　佐川傳之助